

イヌコリヤナギ

Salix integra

ヤナギ科



イヌコリヤナギ。低木である。葉は向かい合ってつく(円内)

名前の由来

「コリヤナギ(行李柳)」に似ているが、これと比べて工芸にあまり役に立たないことから、「イヌ(犬)」が付けられた。コリヤナギの方は柳行李を作るのに適していたことからこう呼ばれたようだ。「ヤナギ」は①古く中国で矢をつくったことから、ヤノキの転。②成長しやすいため、イヤナガ(彌長)の略。③梁をつくったことから、ヤナ木。④柔萎木(やわなぎ)の意。などといわれている。漢字名：犬行李柳

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

形態的特徴

小川や湿地の近くに生える落葉樹、樹高6m。葉は狭長楕円形で長さ4~10cm、低鋸歯縁、若葉は黄緑~紅色、葉柄はほとんど無いか短く、対生ときに互生。雌雄異株。花は雄花序は長さ2~3cm、葯は紅色、雌花序は淡緑色で黒色がまざる、長さ約2cm、5月に葉より先に開花。果実は果序の長さ3~5cm、6月に成熟。

類似種との見分け方：他のヤナギ類は側芽(葉)が互生、イヌコリヤナギは側芽(葉)が対生(向かい合う)。また、他のヤナギの葉には葉柄があるが、イヌコリヤナギにはほとんど無い。



イヌコリヤナギの雄花



イヌコリヤナギの雌花



イヌコリヤナギの実が開き、綿毛と種が出る



イヌコリヤナギの葉。とがらない楕円形



イヌコリヤナギの樹形



イヌコリヤナギの樹皮



イヌコリヤナギの冬芽。向かい合う(対生)



イヌコリヤナギの枝先。葉が向かい合う(対生)

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期			■									

生育環境・分布

水流沿いの砂礫地を好むが、耐浸水性と耐乾燥性の両方を併せ持ち、湿地から乾燥地まで非常に広く生育している。またヤナギ類にしては耐陰性を持っている。

分布：国外分布は、南千島、朝鮮など。国内分布は、北海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、？。十勝地方では、全域、特に川や湿地の近くに生育する

繁殖生態・寿命

5月に葉より先に開花。他の多くのヤナギ類と同様に、蜜腺を持つ虫媒花であり、果実は果序の長さ3～5cm、6月に成熟。ヤナギ類の種子には無数の長毛がつき、風散布さ

れる。その距離は数100mから数10kmにまで達するという。寿命は20～30年（小高木から低木のヤナギ類）。

他生物との関わり

イヌコリヤナギは低木で密生しているため、ベニマシコ・コヨシキリなどの小鳥が、巣をかけることがある。

《ヤナギ一般》花の少ない早春に開花するので、この時期の昆虫にとって貴重な吸蜜源となる。また、ヤナギ類は新条（その年に出た枝）が伸びるにつれ新しい大きめの葉を先に付けるが、早くから出た葉は順番に落ちていく。これによって長期に渡り水生昆虫に餌を供給でき、魚を養うことができる。



ベニマシコ。
低木の小枝に乗せるように
お椀形の巣を作る

植栽関係

多くのヤナギ類と同様に挿し木（埋枝）にむき、移植も易しい。一般的にヤナギの挿し木には、直径1～3cm（枝齢2～5年生）でまっすぐなものが良く、長さ30cmが基準となる。無理矢理打ち込まず、案内棒などで穴を開けて、斜めに埋めることが望ましい。上下間違わないようにすることも大切である。埋枝時期は落葉後の晩秋、発葉前の早春までが適当である。なおクロボク土といわれる黒土を客土

してはならないという。土壌：砂質、弱湿生の土壌に生育するが乾燥地にも良く生育。通気が悪くても耐える。pHは弱酸性、緊密な土壌にも耐える。陽性木だが耐陰性もヤナギ類にしては持つ。樹齢5年で樹高2m、根系深度70cm、根の土壌緊縛力は大きい。

興味深い話

- 花材、細工物、護岸などに用いられる。
- 〈ヤナギ一般について〉多くのヤナギ類は挿し木に向いていて、「さし木にも風はそよぎて柳かな」（里童）という俳句があるほどである。『万葉集名物考』（著者、刊行年代不明『日本文学古註釈大成』に収録）には「柳は枝を折て地上にさしおけば生ひやすく根植はかへりて育たぬもの也」とあって、挿し木の場合は根付きやすいが、移植は育ちにくいことを示している。しかし一般的にヤナギ類は、移植には強いと言われ、相当大きな木でも発葉前の適期に移動し、枝をかなり剪定するとより良く活着するという。
- ヤナギは全体として早熟性であり、発芽後10年ほどで種子散布をおこなう。また風散布によって種子が遠距離まで

分散するため、その生育域を短期間に広げる可能性を持ち、「速足の旅人（クイックトラベラー）」と呼ばれるという。



春先ふくらむイヌコリヤナギのつぼみ

配慮事項

特になし

参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996
「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978

「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎（社）北海道治山協会 2001
「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
ワシ・タカ
鳥類